

彦根市松原町にある東北部浄化センター見学に伺いました。JR彦根駅から米原方面へ電車で1kmほど進むと、車窓の右手の山裾に工場のような施設が見えます。それが東北部浄化センターという下水道処理場です。センターでは職員の井上さんに下水道の役割、施設や水処理の仕組みの説明、施設見学の案内をしていただきました。

現地に到着し、まず会議室に入り滋賀県の下水道の役割と水処理の仕組みなどについて説明いただきました。滋賀県は現在、下水道普及率80%を超えており、全国で7位にあります。これまで下水道が急速に普及してきた理由には、下水道の役割である「生活環境を改善する」、「水質を守る」、「浸水から街を守る」といったものがあり、琵琶湖を抱える滋賀県は、「琵琶湖の水質を守る」という意識の高さが特徴としてあります。またセンターでは富栄養化の原因となる窒素やリンを取り除くために、一部高度処理として急速濾過などを行っています。

実際の「汚水」もビーカーに入れて見

せていただきました。茶色に濁った水で、顔を近づけると、独特においが少しだけ鼻につきました。その他に処理途中の水や処理後の水も見せていただきましたが、処理後は透き通った綺麗な水になっていました。

施設見学では、大きなコンクリートの水槽の上を歩き、水槽の中を上から覗かせてもらいました。水槽の中では茶色く濁った水が洗濯機のようにグルグルと回っていました。茶色に濁っているのは微生物であって、それらは汚れを分解してくれているのだそうです。意外かもしれませんが、ここでは臭いはほとんどしませんでした。水処理の施設を最後まで歩き、汚水が澄んだ水になったことを見届けた後、次に汚泥処理の施設へと向かいました。汚泥とは水処理の過程で出てくる汚れを塊にしたものです。この施設ではこの汚泥を固め、焼いてスラグという石のようになっています。この施設ができるまでは、汚泥は県外の会社で肥料化されていたのですが、会社が受け入れてくれなくなった場合などを考え、場内でスラグ化

井上さんからレクチャー

汚水が透明になる段階



「下水道きれいな湖国の第一歩」汚泥焼却溶融設備

環人会ツアーVol.10

東北部浄化センター見学

- ◆日 時/2009年8月23日(日)
- ◆場 所/東北部浄化センター(彦根市松原)
- ◆案内人/近江環人2期生 杉本卓也(滋賀県職員)



「スラグ」使途が課題



色とりどりのマンホールデザイン



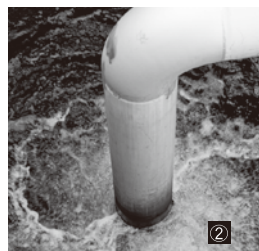
①



④



③



②

①佐和山・大洞弁財天も近い。サンショウウオがいるとか ②微粒子を取り除く急速ろ過池 ③濃縮汚泥を押し込んで水分を取り除く污泥脱水機 ④污泥ケーキを一時貯留するケーキ貯留層

することになったそうです。スラグは工事の埋め戻し材などに使われていますが、現在は使用量よりも発生量が多く、また今後も汚水量は多くなるためスラグの利用方法について苦慮されているようです。

今回の施設見学でセンターの中を一通り回らせていただき、自分たちの体から出たものが、下水道管を流れてどのように処理されていくのかを、目・耳・鼻などを使って実感し、下水道を利用する者の責任について考えさせられるものでした。最後に施設見学に準備・協力いただいたセンター職員の方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。